

# 繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

「早い信仰」と「遅い信仰」 ～ Back to basics ～

## ◆ 2つの時間軸

「会長さん、この悩みどうしたらいいと思いますか？」  
人は誰しも様々な困難や悩みを抱えて生きている。病  
気やトラブルで切羽詰まったケースもあれば、人間関係  
のもつれであったり、自分のことが嫌いなど、長期間に  
わたる悩みもある。

相談を受け、悩みに寄り添うたびに、私(会長)に「た  
すける力・導く力」は果たしてあるのだろうか。いやそ  
んな力、私にはない…と自分の無力さを痛感する。

そんなやりとりを重ねる中で、信仰の求心力には2つ  
の時間軸があるのではないかと私は考えた。

一つは、まさに今抱えている病気、もしくは困りごと  
をたすけてほしいという緊急度の高いもの。

そしてもう一つは、緊急度は高くないが、避けること  
のできない本当に大切なもの。例えば、変えたくても変  
えられない自分の深い内面であったり、死とはなにか？  
人はなぜ生きるのか？ 幸せとは？ といったすぐには  
答えがでそうもない問いである。

仮にこの2つを「早い信仰」、「遅い信仰」と名付けて  
みよう。

## ◆ 「早い信仰」に向き合う

まずは早い信仰、つまり緊急度の高い事柄だ。  
突然の困難やトラブルに遭遇したとき、頭が真っ白に  
なって混乱し、どうしていいかわからなくなってしまう。  
難局、非常時、お道でいうと「ふし(節)」といえるだ  
ろう。

非常時という言葉で思い出すのは以前、地元の消防団  
に入ったばかりのときに受けた教育訓練の場だ。そのと

き、繰り返し教わったのが「非常時にこそ、基本的な訓練や備えが  
重要になる」ということである。災害などに遭遇したことがある方  
は、身に沁みて感じることだろう。

また同じような文脈で、パイロットの世界ではトラブルなどに直  
面した際に、「Back to Basics」と先輩から厳しく教えられるそう  
だ。意味は「基本に戻れ」である。難しい問題に直面したときこそ、  
物事をシンプルに捉え、基本に戻ることは、どんな世界にも通じる  
ことだろう。

## ◆ 「遅い信仰」に向き合う

そして、もう一つの遅い信仰だ。  
こちらは、また別の意味で雲を掴  
むようなものだろう。

人はつい奇跡を求めてしまいがち  
だが、人生ドラマチックな出来事ば  
かりではない。例を出そう。仕事や  
生活、家事育児に追われ、気づけば  
もうこんなに歳をとってしまったとい  
る。ふいに立ち止まって心に浮かぶのは、自分は  
このままでいいのだろうか？ 何のために生きてい  
るのか？ といった大きな問いだ。

このような問いに対する答えを探すために必要  
なのは、ネットなどに溢れる情報をいかに多く集  
めるかということではない。むしろ、効率や成果  
だけを求める「早さ」よりも、あえて時間のスピ  
ードを遅らせた中にある「見落とししていたもの」  
に向き合うことが必要になってくるだろう。

それは流行り廃りでもなく、小難しいことでも  
ないはずだ。自分の本心やルーツであったり、普  
遍的(※)に人間として大切すべきことなど、シ  
ンプルな真理に向き合う営みともいえるだろう。

※ 普遍的…時代や場所が違えど変わらない物事や価値



## ◆お道の教えの土台（基本）

では、お道の信仰における基本は何だろうか？

めへ〜のみのうちよりのかりものさ

しらずにいへなにもわからん（おふでさき 三号137）

とあるように、教えの台は「かしもの・かりもの理」である。

私自身、このことを何度も耳にし、あらゆる場で話をしてきた。

ただ、果たしてこの教えの台という真理が掴めているのか。単なる知識として頭だけで捉えてはいないだろうか。

ここであるエピソードを紹介したい。

心理学の巨匠「C・G・ユング」といえば多くの方が一度は耳にしたことがあるだろう。ユングは優れた心理学者であるとともに、宗教に深い関心をもつ人物であった。そんなユングは、あるインタビューでこう尋ねられた。

「Do you believe in God?（あなたは神様を信じますか？）」

少し間を置いた上でユングは、

「I don't need to believe. I know.（信じる必要はない。私は知っている。）」

と答えたという有名なエピソードがある。

例えば、目の前にある果物が何かを尋ねられたとき、「これはリンゴだと信じている」とは普通は言わない。厳然たる事実として「これはリンゴだ（と知っている）」と言うはずだ。

神の存在と同様に「かしもの・かりもの理」も目には見えない事柄だけに、信じるか否か、というような向き合い方をしてもおかしくない。しかし、先述のおふでさきには、「身の内よりの借り物」を信じるとか、理解する（わかる）ではなく、「知る（知らず）」と教えられた。

普通の人には見えなくても、他人が何と言おうと、自分はそれをしっかりと掴んでいる。ということが、信仰上「知る」ということになるのではないだろうか。

（引用：「かしもの・かりもの」の心 松本滋 著）

親神様の思召（おふでさき）には、その言葉・単語も含めて、深い真理が込められているのだ。

## ◆「知っている」境地へ

「早い信仰」と「遅い信仰」。状況は違えど、どちらにも求められるのは「かしもの・かりもの理」という土台を深く掘り下げていくことだ。

教祖のお側におられた先生方、坂本徳太郎初代会長はじめ今の繁藤の礎を築いてくださった先人たちは、もうダメだという節をどうして心を倒さずに乗り越えられたのか。今と比べると限られた教えしか聞かされていなかったのに、なぜこれほどまでに胸から胸へ信仰が伝わっていったのか。

昔の信仰の先人たちは、神を信じるというよりも、むしろ知っていたともいえるのではないか。そして私たちが目指していくのは、「信じる」ではなく「知っている」という境地ではないだろうか。

さて、この境地に向けてどのような過程を経ていけばよいのか、もう少し具体的にその考えをともに深めていきたいが、かくいう私も頭で考えてばかりで、その境地はまだまだほど遠い。

紙幅の都合上もあり、この続きは次回以降に持ち越したい。

最後に、このたびのコラム中盤の「お道の教えの土台」という段落の部分は、引用にもあるように松本滋先生の「かしもの・かりもの心」を大きく参考にさせてもらった。とても素晴らしい書籍なので、一読をおすすめしたい。



立教一八八八年三月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男



【神殿講話】

(3月) 前大教会長

【おかえり講話並びに

おさづけの理拝戴者講話】

(3月) 宇山基紀

【教会長神殿当番】

(3月) 富久地・赤池

(4月) 地ノ島・田久生

【詰所教養掛】

(3月) 前半 為田基紀

後半 村上英士

(4月) 坂口正幸・坂本喜子

【詰所事務当番】

(3月) 村上由高

(4月) 近藤太一(4月17日)

星野善胤(4月25日)

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

4月16日～30日(紋宝)

10月1日～15日(本山)

○婦人会詰所ひのきしん

3月25日～26日(馬関係2名)

【仕切り月提出のお願い】

昨年と同様に、本年も仕切り月に合わせ大教会定例巡教をつとめさせて頂きます。この取り組みも本年で3年目になります。年祭活動仕上げの年となる本年、「おつとめ奉仕者の役割の手を揃える」という点に強く意識を持って取り組み、年祭活動の集大成の一つとして、その成果をご存命の教祖に御覧頂きたいと存じます。仕切り月をつとめ終えられましたら、お配りしております「仕切り月をつとめ終えて」の用紙にご記入頂き、大教会までご提出下さいますようお願いいたします。ファックスでも結構です。

【立教188年

「たちばな会おぢば帰り団参」について】

○6月29日(日)

10:30 本部神殿にておつとめ

11:30 東講堂にておかえり講話

12:30 弦楽演奏

昼食弁当配布

○帰参御供(29日の昼食弁当含む)

大人・1,000円(中学生以上)

小人・500円(小学生以下)

※帰参報告については、来月月報にて帰参報告書をお届けしますので、4月22日迄に大教会まで提出して下さい。

【婦人会】

◇天理教婦人会第107回総会

「総ての会員がおぢばへ 人を誘っておぢばへ」

●式典

日 時 4月19日(土) 午前9時半

場 所 本部中庭 南・東礼拝場 西境内地

おつとめ 式典に引き続いて

記念行事 支部の集い

※総会后、詰所にて当日いただいたお言葉の

ふりかえりをいたします。

たくさんの方に集まりいただきありがとうございます、

よろしくお願いたします。

◇繁藤支部婦人会では、毎年教祖ご誕生祭に「御赤衣料」として御供をさせて頂いております。ご賛同いただける方は、直属教会を通してお待ちいただけますよう、よろしくお願いたします。

◇別席強調月間

3月1日(土)～4月30日(水)

◇繁藤支部「ひながた勉強会」

日 時 5月25日(日) 13:30～15:30

場 所 繁藤詰所4F大広間

たくさんの方のご参加お待ちしております。

【少年会】

○おつとめまなび総会

立教188年3月30日(日) 9:30～

参加費 1人1000円

おつとめ役割

座りづとめ 各隊代表でつとめる

よろづよ、1・2下目 垣生隊

- 3・4下目 直属・藤高・佐岡・高杉・高阪
- 5・6下目 本山・馬関・別府・飯武・藤広
- 7・8下目 城下・種崎隊
- 9・10下目 西田川隊
- 11・12下目 各隊代表でつとめる

昼食はカレーとさせていただきます。模擬店・室内オリンピックをさせていただきますので各直属から当日2・3名のひのきしんをよろしくお願ひします。

子供も少なくなっていますが、役割の足りないところは大人の方のお手伝いをお願いします。

【広報・史料部より】

「部内教会略史」の更新として資料提出をお願いしてりましたが、まだご提出いただけでない教会には、平成4年に発行した「大教会年譜表と写真集・部内教会略史」をご参照いただき、配布致しております歴代会長経歴記入用紙と、平成4年以降の教会の経緯記入用紙に、早急にご記入の上ご提出下さいますようお願い致します。

【登殿参列】

2月の月次祭に教祖百四十年祭に向けて、繁藤として5回目になります教会長登殿参列があり、下記の7名の教会長様方が登殿参列されました。



教祖 140 年祭 教会長登殿参列 (2月26日)  
 西田川 南田川 孕  
 佐岡 藤高 種孝 高杉



南田川分教会 六代会長就任奉告祭 (2月23日)



たちばな、  
おちばへ。



# たちばな会おちば帰り団参

2025 **6.29** sun

●おつとめ／当日10時30分より、七大教会が本部神殿に集まり、拍子木を入れての「おつとめ」をつとめさせていただきます。

団参の詳細内容はホームページ・SNSをご確認ください

<https://tachibanakai.net>



情報は随時ホームページや SNS などで発信予定です。まずはこちらの公式 LINE をぜひ登録ください。



**たちばな会おちば帰り団参実行委員会**